美容整形に対する態度尺度作成の試み

中　山　　真

〈要旨〉日本は美容整形施術数が世界の中でも上位となっている。先行研究から美容整形に対する態度には心理的特徴が関連することが示唆されている。本研究の目的は，美容整形に対する態度尺度の作成を行い，心理的特徴との関連を検討することであった。美容整形に対する態度尺度の項目案を作成し，大学生を対象に調査を行い，137名分が分析対象となった。因子分析を行い，項目の内容から，第１因子は「興味関心」，第２因子は「肯定」，第３因子は「任意」と命名した。美容整形に対する態度と心理的特徴との関連を検討するため，各尺度間の相関分析を行った。その結果，「興味関心」と「本当の姿観」，「容姿不満」「装い興味」「容姿拒絶感受性」との間に有意な弱い正の相関が見られた。また「肯定」と「本当の姿観」，「容姿不満」「装い興味」との間に有意な弱い正の相関が見られた。そして，美容整形に興味や経験のある群は無関心な群に比べ，肯定的な態度を持っていたことから，一定の妥当性が確認された。

〈キーワード〉美容医療，美容整形，プチ整形，承認欲求，外見

問　　題

「美しくなりたい」「かっこいいと言われたい」という願いを誰しも一度は持つものではないだろうか。魅力的な容姿は他者からの好意度を高める効果を

もつことも知られている（Walster, Aronson, Abrahams, & Rottman, 1966）。魅力的な容姿に見えるようにするための工夫として，衣服やメイクが一般的なものであるが，美容整形も美しくなるためのアプローチの一つである。美容整形は，広義には容姿を美しくするための外科的施術であり，美容外科（cosmetic surgery または aesthetic surgery）ともいう（田中, 2020）。

美容外科領域における最大の学術団体の１つである国際美容外科学会（International Society of Aesthetic Plastic Surgery；以下，ISAPS）は，毎年，世界中の同学会の登録医に対して，美容外科領域における施術対象や施術内容などに関する調査を実施している。2016年の調査結果において，日本での美容整形施術数は，アメリカ，ブラジルに次ぎ世界第３位（113万7,976件，世界全体での施術数の4.8%）である（ISAPS, 2017）。2014年と2011年に行われた過去の調査でも同様に上位に位置しており（ISAPS, 2011, 2015），日本が世界の中でも美容整形大国であることがうかがわれる[1]。なおISAPS（2017）の調査では，世界で外科的施術を受けた人の総数は男性で160万6,653件（15.4%），女性で881万717件（84.6%）であり，美容整形施術を受ける人は圧倒的に女性が多いことがうかがわれる。

美容整形へと駆り立てる要因として，田中（2000）は，個人内要因，対人関連要因，社会文化的要因の３つの側面からまとめている。まず，個人内要因としては，ボディイメージへの不満足感（Sarwer, Wadden, Pertschuk, & Whitaker, 1998），容姿への没入傾向（Javo & Sørlie, 2009），セルフモニタリング傾向（Matera, Nerini, Giorgi, Baroni, & Stefanile, 2015），容姿に起因する拒絶感受性（Park, Calogero, Young, & DiRaddo, 2010）を挙げている。対人関連要因としては，友人から容姿のことを冷やかされた経験（von Soest, Kvalem, Skolleborg, & Roald, 2006），周囲の人から美容整形を勧められた経験（Javo & Sørlie, 2009），身近で美容整形を受けたことのある知人の存在（Brown, Furnham, Glanville, & Swami, 2007）などを挙げている。社会文化的要因としては，メディアによる影響として，美容整形に焦点を当てたテレビ

1 ただし，日本ではメスを使用する外科的施術よりもメスを使用しない非外科的施術（いわゆるプチ整形）の割合が多い（ISAPS, 2017）。

番組の視聴（Markey & Markey, 2010），ファッションブログの閲覧（Lunde, 2013）などがある。

鈴木（2017）は，以上のような先行研究を踏まえ，美容医療（美容整形・プチ整形）に対する態度と心理的要因の関連を検討しており，興味や経験によって，心理的特徴が異なっていた。先述の先行研究からも心理的特徴が美容整形に対する態度に関連することが考えられる。しかし，これまで美容整形に対する態度を測定する心理尺度は作成されていない。そこで，本研究では美容整形に対する態度尺度の作成を行い，心理的特徴との関連を検討する。これまでのところ，美容整形に対する態度の特徴は十分に明らかになっていない（Henderson-king & Henderson-King, 2005）。そのため，美容整形に対する態度尺度を作成することにより，態度に影響する様々な要因との関連を検討する研究も発展させることができるだろう。

方　法

調査対象・手続き

三重県内のA大学およびB短期大学の学生計172名を対象に質問紙調査を実施した。A大学の学生には心理学の授業を通じて参加を呼びかけ，オンライン上で回答を求めた。B短期大学の学生には心理学の授業の一部の時間を使い，その場で質問紙を配布し回答を求め，その場で回収した。回答に要する時間は10分程度であった。著しく不備のある回答を除外し，137名（女性79名・男性55名・その他３名，平均年齢19.49歳，$SD = 0.99$）を分析対象とした。

調査内容

以下の内容について尋ねた。

美容整形に対する態度尺度　心理学を専門とする教員１名と学部学生10名により，ブレーンストーミングによって項目案を選出した[2]。その上で，態度の３要素である認知・感情・行動が幅広く捉えられるように項目を追加・修正し，最終的に30項目となった。「１．全くそう思わない」「２．そう思わない」

2 皇學館大学文学部コミュニケーション学科２年生を対象とする「基礎演習」において，心理学研究の方法，レポート執筆方法を学習する一環で尺度作成の演習を行った。

「３．どちらとも言えない」「４．そう思う」「５．とてもそう思う」の５件法で尋ねた（Appendix 1）。

関連する概念　美容医療（美容整形・プチ整形）に対する態度については，鈴木（2017）がさまざまな心理的特徴との関連を検討している。その中で，特に関連が見られた，賞賛獲得欲求・拒否回避欲求，外見評価（自己）と外見評価（他者），本当の姿観，容姿不満，装い興味，容姿による拒絶感受性（容姿拒絶感受性）について，鈴木（2017）と同様の項目・同様の選択肢「１．あてはまらない」「２．あまりあてはまらない」「３．ややあてはまらない」「４．あてはまる」の４件法で測定することとした（Appendix 2）。

フェイス項目　基本属性として，年齢と自認する性別，美容整形（プチ整形を含む）および彫り物・タトゥー，ピアス，ヘアカラー・毛染め・ブリーチの経験や興味の有無についても尋ねた。

倫理的配慮

調査実施時には，(1) 研究参加は任意であり，不参加や中断により不利益を被ることはないこと，(2) 回答は無記名で行われ，得られたデータは全体を統計的に処理するため，個人が特定されることや個人の回答が問題になることはないこと，(3) 得られたデータは研究者のみが研究目的のみで使用することを，回答サイトまたは質問紙上に記載し，理解および同意した参加者のみが調査項目への回答を行った。また，回答終了後には，希望者に調査内容の平易な説明と研究者の連絡先を記載したデブリーフィングを表示，または用紙を配布した。

分析

統計分析にはHAD 17.204（清水, 2016）を使用した。

結　　果

美容整形に対する興味・経験

美容整形に対する興味・経験の有無を尋ねたところ，「興味がない」は87名（64.0%），「経験はないが興味はある」は46名（33.82%），「経験がある」は３名（2.19%）であった。「経験がある」はごく少数であったため，以降の分析で

は，「経験はないが興味はある」と統合し，「無関心群」と「興味・経験群」として分析を行う。

美容整形に対する態度尺度の因子分析

美容整形に対する態度尺度30項目について，探索的因子分析（最尤法）を行った。その結果，スクリープロット（固有値の減衰状況），対角SMC，MAP，共通性の和などの指標が示す因子数の候補は分かれたが，解釈可能性も加味して，３因子に設定し，再度因子分析（最尤法・プロマックス回転）を行った。因子負荷量が.40に満たない項目を削除して，因子分析を繰り返し，最終的に22項目が抽出された（Table 1）。項目の内容から，第１因子は「興味関心」，第２因子は「肯定」，第３因子は「任意」と命名した。

Table 1　美容整形に対する態度尺度の因子分析結果（最尤法・プロマックス回転）

項目	Factor1	Factor2	Factor3	共通性
Factor 1 興味関心（α = .93）				
23 お金があれば迷わず美容整形をする	**.897**	-.057	.109	.819
30 美容整形についての広告を気になって見てしまうことがある	**.873**	-.186	-.027	.624
28 美容整形についての情報を調べたりすることがある	**.857**	-.071	-.034	.665
22 他人に何を言われても美容整形をしたい	**.809**	.005	.045	.681
24 美容整形の費用が高額でなければやってみたい	**.798**	.050	-.004	.677
21 自分の顔や体の気になる部分を美容整形して直したい	**.771**	-.017	.007	.584
26 美容整形について専門家のアドバイスを受けてみたい	**.623**	.134	-.006	.489
15 美容整形をしている人がうらやましい	**.613**	.247	-.159	.528
29 美容整形した人の体験談を聞いてみたい	**.574**	.084	.016	.392
27 自分の顔や体を整形したらどうなるかシミュレーションしてみたい	**.416**	.213	-.005	.306
Factor 2 肯定（α = .84）				
9 美容整形により美しい姿になれる	.068	**.841**	-.080	.719
8 美容整形をすることで周りからのよい印象が得られる	.051	**.759**	-.178	.536
10 美容整形をすることで自分らしく生きられる	-.044	**.676**	.199	.571
19 美容整形することで自分に自信が持てる	.087	**.599**	.199	.564
5 美容整形はコンプレックス（劣等感）をなくすための手段だ	-.083	**.513**	.286	.414
Factor 3 任意（α = .83）				
18 美容整形をすることはずるいことだと思う*	-.064	-.217	**.912**	.704
17 美容整形は恥ずかしいことだ*	.079	-.046	**.754**	.580
3 美容整形は男女問わずしてもよいと思う	.024	.078	**.648**	.478
7 生まれ持った姿に美容整形で手を加えるべきではない*	.149	.099	**.591**	.494
16 美容整形をすることで罪悪感が生じる*	.142	-.061	**.586**	.377
1 美容整形するかどうかは個人の自由である	-.136	.119	**.556**	.336
25 身近な人が美容整形したいと言ったらやめるように言う*	-.143	.145	**.517**	.306
因子寄与	6.744	4.915	4.368	
Factor 1	-	.506	.285	
Factor 2	.506	-	.404	
Factor 3	.285	.404	-	

注）項目の*印は逆転項目を示す。

尺度得点の基礎統計量

本研究で使用した尺度得点の基礎統計量を Table 2 に示す。

Table 2　各尺度の平均値・標準偏差

変数名	*N*	平均値	標準偏差
賞賛獲得欲求	137	2.292	0.694
拒否回避欲求	137	3.007	0.705
外見評価（自己）	137	1.978	0.966
外見評価（他者）	137	2.146	0.959
本当の姿観	137	2.000	0.963
容姿不満	137	3.156	0.730
装い興味	137	3.007	0.783
容姿拒絶感受性	137	2.241	0.824
興味関心	136	2.458	0.984
肯定	137	3.593	0.739
任意	137	3.994	0.645

美容整形に対する態度の性差

美容整形に対する態度の性差を検討するため，3つの下位尺度ごとに t 検定を行った。

その結果,「興味関心」では有意傾向（$t(126.57) = 1.89$, $p < .10$; 女性 $M = 2.59$, $SD = 1.06$, 男性 $M = 2.27$, $SD = 0.87$),「肯定」では有意差（$t(104.99) = 2.58$, $p < .05$; 女性 $M = 3.72$, $SD = 0.68$, 男性 $M = 3.39$, $SD = 0.78$),「任意」でも有意差（$t(96.39) = 3.77$, $p < .001$; 女性 $M = 4.16$, $SD = 0.54$, 男性 $M = 3.73$, $SD = 0.70$）がそれぞれ見られた。いずれも女性の方が男性よりも得点が高かった。

美容整形に対する興味・経験による態度の差異

美容整形に対する興味・経験（無関心群／興味・経験群）による態度の差異を検討するため，３つの下位尺度ごとに t 検定を行った。

その結果,「興味関心」では有意差（$t(76.25) = 11.39$, $p < .001$; 無関心群 $M = 2.59$, $SD = 1.06$, 興味・経験群 $M = 3.41$, $SD = 0.81$),「肯定」では有意差

（t（122.26）= 5.80, p <.001；無関心群 M = 3.35，SD = 0.73，興味・経験群 M = 4.00，SD = 0.56），「任意」でも有意差（t（111.39）= 4.36, p <.001；無関心群 M = 3.83，SD = 0.64，興味・経験群 M = 4.28，SD = 0.56）がそれぞれ見られた。いずれも興味・経験群の方が無関心群よりも得点が高かった。

美容整形に対する態度と心理的特徴との関連

美容整形に対する態度と心理的特徴との関連を検討するため，各尺度間の相関分析を行った（Table 3）。その結果，「興味関心」と「本当の姿観」，「容姿不満」「装い興味」「容姿拒絶感受性」との間に有意な弱い正の相関が見られた（r = .23 ～ .42）。また「肯定」と「本当の姿観」，「容姿不満」「装い興味」との間に有意な弱い正の相関が見られた（r = .17 ～ .30）。一方，「任意」については有意な相関は見られなかった。

Table 3　各尺度間の相関分析

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1 賞賛獲得欲求	1.000									
2 拒否回避欲求	.179 *	1.000								
3 外見評価（自己）	.229 **	-.151 +	1.000							
4 外見評価（他者）	.238 **	-.139	.630 ***	1.000						
5 本当の姿観	.220 **	.051	.206 *	.255 **	1.000					
6 容姿不満	.105	.371 ***	-.346 ***	-.358 ***	.094	1.000				
7 装い興味	.310 ***	.152 +	.295 ***	.344 ***	.367 ***	.171 *	1.000			
8 容姿拒絶感受性	.102	.353 ***	-.156 +	-.175 *	.235 **	.421 ***	.169 *	1.000		
9 興味関心	.118	.074	-.005	-.020	.300 ***	.252 **	.418 ***	.228 **	1.000	
10 肯定	-.004	.075	.031	-.015	.172 *	.282 **	.295 ***	.144 +	.497 ***	1.000
11 任意	-.098	.000	-.162 +	-.119	.064	.166 +	.165 +	-.015	.284 **	.456 ***

注）*** p < .001, ** p < .01, * p < .05, + p < .10

考　　察

本研究では，美容整形に対する態度尺度を作成し，心理的特徴との関連を明らかにすることを目的とし，大学生・短大生を対象に質問紙調査を実施した。

美容整形に対する態度尺度の因子構造

美容整形に対する態度尺度30項目について因子分析を行ったところ，３因子22項目が抽出された。項目内容から第１因子は興味関心，第２因子は肯定，第３因子は任意と命名された。このように態度といっても複数の因子に分かれたことから，単に美容整形に対する興味・関心の有無を「はい／いいえ」で回答

するのではなく，このような態度尺度を使用して測定することに意義があると言えるだろう。

美容整形に対する態度と性差および興味経験による差異

美容整形に対する態度は３つの下位尺度ともに，男性よりも女性で得点が高く，肯定的な態度を持っていた。このことは男性に比べ女性の方が圧倒的に美容整形施術件数の多いこと（ISAPS, 2017）と合致するものと考えられる。また，美容整形に興味や経験のある群は無関心な群に比べ，肯定的な態度を持っていた。このことから，本研究で作成した尺度には一定の妥当性があると言えるだろう。

美容整形に対する態度と心理的特徴との関連

美容整形に対する態度と心理的特徴との関連を検討した結果，「興味関心」と「本当の姿観」，「容姿不満」「装い興味」「容姿拒絶感受性」との間および，「肯定」と「本当の姿観」，「容姿不満」「装い興味」との間に有意な弱い正の相関が見られた。一方，「任意」については有意な相関は見られなかった。これらの結果から，容姿に不満があることや装いに対する興味が美容整形に対する興味関心や肯定的な態度につながる可能性がある一方，「任意」はそれに比べてやや消極的な態度であり，容姿への不満や装いに対する興味の有無とは特に結びつかないのだろう。

本研究の限界と今後の課題

本研究では大学生を対象としたため，美容整形の経験者も少なく，身近なものでなかった可能性がある。美容整形は一定の費用が発生するため，収入のある社会人を対象者に広げて検討する必要があるだろう。

利益相反

本論文に関して，開示すべき利益相反事項はない。

引用文献

Brown. A., Furnham, A., Glanville, L., & Swami, V. (2007). Factors that affect the likelihood of undergoing cosmetic surgery. *Aesthetic Surgery Journal*, *27*, 501-508.

Henderson-king, D. & Henderson-King, E. (2005). Acceptance of cosmetic surgery: Scale development and validation. *Body Image*, *2*, 137-149.

International Society of Aesthetic Cosmetic Surgery (2011). *ISAPS international survey on aesthetic/cosmetic procedures performed in 2011*. International Society of Aesthetic Cosmetic Surgery. Retrieved from https://www.isaps.org/wp-content/uploads/2017/10/ISAPS-Results-Procedures-2011-1.pdf (January 27, 2022)

International Society of Aesthetic Cosmetic Surgery (2015). *ISAPS international survey on aesthetic/cosmetic procedures performed in 2014*. International Society of Aesthetic Cosmetic Surgery. Retrieved from https://www.isaps.org/wp-content/uploads/2017/10/2015-ISAPS-Results-1.pdf (January 27, 2022)

International Society of Aesthetic Cosmetic Surgery (2017). *The international study on aesthetic/cosmetic procedures performed in 2016*. International Society of Aesthetic Cosmetic Surgery. Retrieved from https://www.isaps.org/wp-content/uploads/2017/10/GlobalStatistics2016-1.pdf (January 27, 2022)

Javo, I. M., & Sørlie, T. (2009). Psychosocial predictors of an interest in cosmetic surgery among young Norwegian women: a population-based study. *Plastic and Reconstructive Surgery*, *124*, 2142-2148.

Lunde, C. (2013). Acceptance of cosmetic surgery, body appreciation, body ideal internalization, and fashion blog reading among late adolescents in Sweden. *Body Image, 10*, 632-635.

Markey, C. N., & Markey, P. M. (2010). A correlational and experimental examination of reality television viewing and interest in cosmetic surgery. *Body Image*, *7*, 165-171.

Matera, C., Nerini, A., Giorgi, C., Baroni, D., & Stefanile, C. (2015). Beyond sociocultural influence: Self-monitoring and self-awareness as predictors of women's interest in breast cosmetic surgery. *Aesthetic Plastic Surgery*, *39*, 331-338.

Park, L. E., Calogero, R. M., Young, A. F., & DiRaddo, A. M. (2010). Appearance-based rejection sensitivity predicts body dysmorphic disorder symptoms and cosmetic surgery acceptance. *Journal of Social and Clinical Psychology*, *29*, 489-509.

Sarwer, D. B., Wadden, T. A., Pertschuk. M. J., & Whitaker. L.A. (1998). Body image

dissatisfaction and body dysmorphic disorder in 100 cosmetic surgery patients. *Plastic and Reconstructive Surgery*, *101*, 1644-1649.

清水 裕士（2016）. フリーの統計分析ソフトHAD：機能の紹介と統計学習・教育，研究実践における利用方法の提案　メディア・情報・コミュニケーション研究, *1*, 59-73.

鈴木 公啓（2017）. 美容医療（美容整形およびプチ整形）に対する態度―経験の有無や興味の程度による比較―　東京未来大学研究紀要, *11*, 119-129.

田中 勝則（2020）. 第7章 美容整形 鈴木 公啓（編）装いの心理学：整え飾るこころと行動（pp. 96-109）北大路書房

von Soest, T., Kvalem, I. L., Skolleborg, K. C., & Roald, H. E. (2006). Psychosocial factors predicting the motivation to undergo cosmetic surgery. *Plastic and Reconstructive Surgery*, *117*, 51-62.

Walster, E., Aronson. E. Abrahams, D., & Rottman. L. (1966). Importance of physical attractiveness in dating behavior. *Journal of Personality and Social Psychology*, *4*, 508-516.

資　料

Appendix 1　美容整形に対する態度尺度項目案（30項目）

［認知］
美容整形するかどうかは個人の自由である
美容整形はメイクのような気軽なものだ
美容整形は男女問わずしてもよいと思う
美容整形の費用はその効果に見合っていないと思う
美容整形はコンプレックス（劣等感）をなくすための手段だ
適度な美容整形であれば問題はない
生まれ持った姿に美容整形で手を加えるべきではない
美容整形をすることで周りからのよい印象が得られる
美容整形により美しい姿になれる
美容整形をすることで自分らしく生きられる

［感情］
美容整形手術による痛みが怖い
美容整形は失敗が怖い
美容整形は依存しないかどうか不安だ
美容整形をしている人をかっこいいと思う
美容整形をしている人がうらやましい
美容整形をすることで罪悪感が生じる
美容整形は恥ずかしいことだ
美容整形をすることはずるいことだと思う
美容整形することで自分に自信が持てる
美容整形したことは他人には知られたくないことだ

［行動］
自分の顔や体の気になる部分を美容整形して直したい
他人に何を言われても美容整形をしたい
お金があれば迷わず美容整形をする
美容整形の費用が高額でなければやってみたい
身近な人が美容整形したいと言ったらやめるように言う
美容整形について専門家のアドバイスを受けてみたい
自分の顔や体を整形したらどうなるかシミュレーションしてみたい
美容整形についての情報を調べたりすることがある
美容整形した人の体験談を聞いてみたい
美容整形についての広告を気になって見てしまうことがある

Appendix 2　心理的特徴項目一覧

［賞賛獲得欲求］
人と話すとき、できるだけ自分の存在をアピールしたい
自分が注目されていないと、つい人の気を引きたくなる
初対面の人にはまず自分の魅力を印象づけようとする
［拒否回避欲求］
場違いなことをして笑われないよう、いつも気を配る
意見を言うとき、みんなに反対されないかと気になる
不愉快な表情をされると、あわてて相手の機嫌をとる方だ
［外見評価（自己・他者）］
自分の外見を魅力的（美しい／かっこいい）と思うことがある
周りの人から外見が魅力的（美しい／かっこいい）と言われることがある
［本当の姿観］
素の姿よりも（衣服や化粧などで）着飾った姿の方が自分の本当の姿だと思う
［容姿不満］
外見に自信が無い
自分の容姿に不満なところがある
他の人よりも外見的魅力に劣っていると思う
［装い興味］
自分の容姿をよく見せるために努力している
自分の容姿がどのように見えているか気にしている
おしゃれをしたり見なりを整えるのが好きだ
［容姿による拒絶感受性］
容姿のせいで魅力的に思われないと思うことがある
容姿のせいで他者に避けられたと思うことがある
容姿のせいで相手にしてもらえなかったと思うことがある

Development of Attitudes towards Cosmetic Surgery Scale

Makoto Nakayama (Faculty of Letters, Kogakkan University)

Abstract

Japan ranks high in the number of cosmetic surgery procedures performed in the world. Previous studies have suggested that psychological characteristics are related to attitudes toward cosmetic surgery. The purpose of this study was to develop an attitude scale toward cosmetic surgery and to examine its relationship to psychological characteristics. A draft of items for an attitude scale toward cosmetic surgery was developed, and a survey was conducted among university students. 137 subjects were included in the analysis. Factor analysis was conducted, and based on the content of the items, Factor 1 was named "interest", Factor 2 "affirmation", and Factor 3 "free". To examine the relationship between attitudes toward cosmetic surgery and psychological characteristics, a correlation analysis between each scale was conducted. As a result, significant weak positive correlations were found between "interest" and "view of true appearance", "dissatisfaction with appearance", "interest in appearance", and "sensitivity to appearance rejection". A significant weak positive correlation was also found between "affirmation" and "view of true appearance", "appearance dissatisfaction", and "interest in dressing up". And since participants who were interested in and experienced cosmetic surgery had a positive attitude, a certain validity was confirmed.

Keywords : cosmetic medicine, cosmetic surgery, minor plastic surgery, need for approval, appearance